

第61回愛知県河川整備計画流域委員会 議事抄録

〈石川水系②〉

日時：平成29年8月28日（月）14時45分～15時45分

場所：愛知県庁 6階正庁

◇議題

石川水系②

- 流域及び河川の概要
- 計画規模と計画高水流量の検討
- 河川整備計画の方向性

◇質疑

【委員】

半田の観測所が統計的な信頼度が低い。だから、名古屋地域を使うということだが、どうしてか。

【事務局】

観測期間が短いと1つの雨が降ったときにぶれる。そのぶれの幅が小さいか大きいかを判断する。SLSCという指標で、それが0.04に入るか入らないかを1つの指標として判断している。

【委員】

利水の現状で、水道用水の水源は長良川と書かれておりまして、他のページでは木曾川を水源とする愛知用水となっている。一方は長良川で一方は木曾川というのは理解しにくい。

ここは平成3年から平成9年までは周りが水田とか畑、原野で、その後が一気に18年から川沿いがみんな都市化というか、住宅地化している。地面の浸水能力というのはかなり落ちていると思う。この計画が宅地化されたと想定した部分で計算された計画高水なのかということも教えていただきたい。

最後に今後の話になると思うが、ニホンウナギは水田があったから昔はいたが今は細々といつかいないかといったらもう絶滅ぎりぎりの状態のような川だった。整備目標としてはすてきな文言がすごく並んでいる。本当に実現できるのか。

厳しいかもしれないが、ここはそれを求めないとか、そうではないものを求めるのか、それとも、その中でもある種をターゲットにして、それまでは生き残れるような川にするのかということのように明記したほうが計画としては素直だと思う。どの景観、河川整備計画も環境のところは、みんなこのように書かれている。

【事務局】

水道については、知多半島においては東海市、大府市及び東浦町の一部が木曾川から取水している。今回対象の半田、常滑、武豊は長良川の河口堰より取水しているので、ここで修正をさせていただきます。

【事務局】

都市化の件について平成に入ってから開発が進んで都市化されたような状態になっている。石川の計画は昭和56年と平成8年と今回の計画と見直しをしている。今回の市街化区域については流域の50%を占めるような、流出係数で高く流出してくるような計算をしている。

【事務局】

例えばニホンウナギの状況では、下流部のところと中流部のところ、いずれもニホンウナギは確認されているが、個体数が少なく、具体的にこれというような種を絞り切れるような段階ではないと今の時点は考えている。

【委員】

前回現地視察のときには5分の1流量に対して能力不足の箇所があるというような説明だと記憶していますが。

【事務局】

局部的にというのは、余裕高評価で流下能力不足の箇所がある。

【委員】

断面不足というのは余裕高評価で断面が5分の1の能力分ないところが何か所かあると思った。余裕高がなくても断面的にアバウトにあるからいいという判断に変わったとこの資料を見て受け取ったわけですけど、そうではないですか。

【事務局】

前回の資料では局所的にハイウォーター評価に対しての流下能力が足りないという説明だが、愛知県としてゼロメートル地帯も踏まえていろんな河川を考えている中で、今回の河川については全川掘り込みの河川で、近年大規模な浸水被害も発生していないということで、県としては優先順位をつけて河道整備をする中で、掘込みで堤防満杯でもあふれないというのは整備順位が後送りになる。

【委員】

今回に限らずどこの河川の流下能力の資料を見ても、堤防高評価と余裕高評価が大体併記されていて、私のイメージでは余裕高評価でクリアをするのが基準だろうなと思っていたが必ずしもそうでもない。

【事務局】

本来はそうですけど、基本的に有堤河道でしたらハイウオーター評価で流下能力を確保したいところはある。愛知県として堤防の構造によって余裕高で評価したり、堤防高で評価したりというようなことがある。

【委員】

その辺は基準みたいなものを持っているのか。有堤区間だとここで、あるいは掘込み区間であればという、説明があったような内容で。

【事務局】

明文化した形はないがまずは掘り込みか有堤かというところは着眼点として持っている。

基本としては、今お話しさせていただいたように、掘込みのところについても本来であれば余裕高評価をすべきとは思いますが、一部このように堤防高評価を採用して判断している場合がある。

【委員】

中流河川においてはということですね。有堤区間の場合はハイウオーターを基準に。

【事務局】

そうですね。有堤の場合は堤防が切れたときの影響も大きい。

【委員】

基本的な考え方は持っているということですね。

【事務局】

今日、ご指摘がありましたので、その点は整理します。基本的には、今申し上げましたように掘込みのところと有堤については少なくとも余裕高評価はすべきと考えている。ほかの事例も確認して、整理はさせていただきたいと思う。

【委員】

必ずしも全部そうとはならないとは思いますが、河川の規模もあるし、背後地の資産、人口等々もいろいろ考えていると思う。

【事務局】

今申し上げたようにゼロメートル地帯だとか、山間地域を流れる川というのではちょっと違いがあるのかなと思う。きれいな分け方でいいのかどうかというのはございますけれども。

【委員】

先ほどの質問に関連しますが、どこの計画を見ても現況流下能力のこのグラフはあまりふだん見なれていない人間にとっては何を見て何がオーケーなのか、何がアウトなのかとか、非常にわかりにくい。こういう理由でいいとか、悪いとか、あるいはこのグラフの読み方をもうちょっとどこかで解説されるとか、そういうことをしていただけると非常にありがたいと思う。

【事務局】

わかりました。改善させていただきたいと思う。

【委員】

この川はもともとため池の多いところが、愛知用水ができてから愛知用水で利水を賄って取水も何もしていないと。ため池がどんなふうに残っているのか。ため池の水位をどう考えているのかとか、いわゆる流水解析とか、これぐらいの規模の治水対策をするときにため池群はもうほとんどなくて気にしなくていいのか、ため池をある程度水位管理するのかというようなことは議論の中には上がってこないのか。

【事務局】

この石川もそうだが、知多半島については非常にため池が多くて、この絵で見るように石川の最上流で言うと長成池だとか、浅水川の上だと鹿狩池だとか、いろんなため池がある。

今回は県の河川管理施設ではなくて、土地改良区だとか個人所有のため池であることから、計算としては流量として見込んでいない。池というのは超過洪水に対して有効に働くというのはあるものですから、保全に努めていただきたいというのを本文に書いていきたいなというところ。

ため池については治水効果を計画にも見込めるものは見込みたいところではあるが、そこら辺の整理をどのようなケースであれば見込めるか見込めないかを今、検討しているところある。

今の計算は、それはあくまで超過洪水対策として有効に働くというのを考えていて、5分の1も30分の1も計画には見込んでいないような状況である。

【委員】

そういう対策としてどう見込むかということじゃなくて、流域の中で一番上の流域で1.52平方キロのうちに大きな池がある。ここへ降った雨はこの池のところへ集水されて、池のいわゆるオーバーフローのところから出ていくのだが、その水位管理とか、オーバーフローのところの越流の部分がどうなっているのかとか、そういうのは全然気にしなくて、降った雨は、そこはもう平地として流れていると扱っているわけですか。これぐらいの池はそれぐらいの面積の中でどう扱うのかなと思って。

【事務局】

そのまま池として見ているのではなくて、水面として流れていく。

【委員】

水面というか、平らな貯留水も何も考えなくて、ただ単にそこは駐車場と一緒にだ。貯留もしないし。一番上のところはれぐらいの規模の計画を立てるときにかなり大きな役割をするのではないかなと思いましたので、流域貯留、流域基本高水的なイメージで、一番上の流域のところは

どれぐらいの余裕があるのか見られたらおもしろい結果が出るかなという気がした。

【委員】

実際には何らかの貯留効果はあるんでしょうね、実際にはね。

【事務局】

実際にはあると思うが、要は貯留効果を見るか見ないかで、計画高水流量が減るという話もあるが、心配しているのは将来にわたる担保性というところがあり、流量を減らした計画をつくって橋梁なり、河口部の水門の改築を行った後に、このため池を埋めて新しく宅地をつくりますと言われたときに、今までの構造物を全て見直さなきゃいけないというような状況が一番怖い。

【委員】

どのような状態で誰が担保するかというのは非常に大きな問題で、心配するのはわかりますが、ため池は川につながった水域であるというのは、県の管理区域でないが、河川管理者からはそういう発想をしっかりと発信してほしいと思う。おいおい考えていただけたらありがたいと思う。

【委員】

アンケートをいつものように実施されると思うが、この石川の流域は武豊町、半田市、それから常滑ですかね。浸水領域というのは、過去の昭和51年の台風でとか、平成11年とか平成12年の浸水被害の地域を見ていると武豊町が多いというか、石川の右岸流域でしょうかね。そちらに広がっていますね。

ですから、アンケートをされるときにぜひアンケートの結果を、武豊町と、それから半田市の住民のところでも少し分けてデータを出していただくと、地域住民の意識がよくわかるんじゃないかなと思いますので、そういうことをお願いしたいなと思う。

【事務局】

地区別に集計できるようにアンケートを実施させていただく。

【委員】

アンケート案ができたなら各委員に送っていただいて、何かあればちょっとご意見をいただくとというようなことをしていただきたいなと思う。

【事務局】

わかりました。アンケート案ができましたら委員の方々にもちょっと見ていただくような機会はつくりたいと思う。

【委員】

植生についてですけど、コンクリート護岸にここはほとんどされていて、実はその護岸をする

前に一体どういう植生がその護岸にあつて、それが今度改修していくときにどこかでもう一回復元できるところがあるのかとか、復元していく可能性があるのかとか、もしくは壊す前のものに残っているものがあれば、それを少し多自然改修されたときに水面よりもちょっと上に上がったところにはそれを移植して保全していこうとか、そういう方向性を持っていただけると、コンクリート前の落とし前がつけられるかなという気がする。

植生のことがほとんど書かれていないので、皆さんの場合はコンクリートにしちゃったからそこから後のことを考えればいいでしょうと思いがちですが、今ならまだ周りに残っている可能性もあるので、それをどう戻していくかということを少し考えていただけたらいいと思う。コンクリートにする前の植生とか、もしくは周りの護岸の植生を考えていただけたらありがたいと思うので、つけ加えさせていただく。

【事務局】

今回の整備計画策定にあたって、現在の河川環境について調査を実施し、植生などをまとめているので検討させていただく。

— 了 —